

平成30年度学校自己評価表(最終評価)

学校運営方針

1 平成31年度入学生の増加を本年度の最重要課題とする

- (1) 学校の経営体力強化のための生徒増進策の策定と実行
 (2) 生徒募集目標の設定と具体的な施策の検討、及びその行動基準の明確化

2 教育内容を充実する

- (1) 人間力の向上
 (2) 学力の向上
 (3) 進路目標の実現
 (4) 部活動の充実
 (5) 授業の充実
 (6) 健康教育の充実

評価基準 A:概ね達成 (80%程度以上) B:変化の兆し (60%程度) C:まだ不十分 (40%程度) D:方策の見直し (30%以下)

評価項目	目指す姿	現状	具体的方策	評価結果	
				経過・達成状況	改善方策
生徒数の増加	○適正な入学者数を確保している。 ○人間力を向上し、3年間学べる環境を整える。	○入学者が定員を満たしていない。 ○特色ある教育の実施、施設の実施。 ・特別進学コース0限授業。7限演習。 ・高校生レストランの実施。 ・第一体育館、第二体育館、柔道場の改修。 ・寮の改修。	① 適正な目標設定と進捗管理並びに募集方法の見直しを行う。 ・各部活動又は各科・コースの生徒募集目標を設定する。 ・特色あるコース・科及び類型を活かした生徒募集を行う。 ・学校説明会を工夫改善する。 ・オープンスクールを工夫改善する。 ・生徒募集に対する研修を行う。(成功事例発表・ロールプレイング等) ・進捗状況を管理し、対策を更新する。 ② 本校のブランド力を向上する。 ・HPをリアルタイムで更新する。 ・パンフレット紙面の魅力化に努め、本校のブランドアップを図る。 ・生徒の地域活動を積極的に推進する。 ・マスコミを積極的に活用する。	① 適正な目標設定と進捗管理並びに募集方法の見直し ・推薦・専願入学実績＝部活動36名(目標58:昨年22)。 ・推薦・専願入学実績＝特進17名(目標18:昨年12)。総合50名(目標62:昨年51)。調理25名(目標18:昨年11)。推薦・専願合計92名(目標98:昨年74名)。併願11名(目標32:昨年8名)。 ・各市町教委、県内外中学校訪問を4月から始め、進路実績や特色ある取組の資料を持参し、回数も倍増した。中学校での草刈りボランティアも行った。昨年より入学者が増えたが目標には遠く及ばなかった。 ② 本校のブランド力を向上する 高校生レストランが話題を呼び、調理科が初めて定員を満たした。特進コース、部活動の実績をアピールしたがブランドとして評価されるに至っていない。	C ①目標設定の見直し 来年度、中部地区の中学生在が今年度より約30名減る。また、中部地区外への流出も年々増加している。そのため、併願受験での入学者数が多く見込めない。この状況は今後より厳しくなる。今後は、県東部・西部の中学校、県外の中学校へのアプローチを強め、推薦・専願で130名確保することを目標としなければならない。 ②本校のブランドをアピールし、的を絞ってアタックする 調理科は人気上昇で推薦・専願でないと合格できない状況、30名を目標にすべき。特進は進学実績を出しているので本校に合った高学力生徒をターゲットに30名を目標にすべき。部活動推薦60名を目標にすべき。公務員類型もアピールする。総合コースは多様性をアピールし+30名目標。 すべて推薦・専願で充足することを目指す。
学力の向上	○特進コース全員が現状のSS(偏差値)+5を達成している。 ○総合・調理の基礎学力を向上させる。 ○AO・推薦、就職生徒の小論文(作文)・面接の力が身に着いている。 ○公務員試験合格ラインに5名が達している。	○出題範囲の広い外部模試で得点が取得できていない。 ○基礎学力の定着が不十分。学びなおしが必要。 ○アドバイザーに面接を依頼している ○公務員希望者が5人である	○特進会議を定期的に開催し学力分析と対策を検討する。 ○マトレ(基礎基本のふり返し)を活用する。 ○ハートフルスペース等の支援機関を活用する。 ○小論文(作文)・面接指導を組織的、計画的に行う。 ○教育提携している流通経済大学教授の特別講座を企画、実施する。(5回)	○特進会議を開催し、情報共有を行った。 ○マトレ(基礎基本のふり返し)を活用した。 ○ハートフルスペース、相談室を活用した。 ○小論文(作文)・面接指導を行った。	B ○特進会議を開催し、情報共有を行ったが、その後の指導をもっと組織的に行う必要がある。 ○基礎力診断テストの結果の共有を全体で行い、教科との連携を図る必要がある。 ○ICTの活用など授業に対して工夫を行う。 ○小論文(作文)・面接指導を組織的、計画的に行う。 ○教育提携している流通経済大学教授の特別講座を企画、実施する。
進路目標の実現	○国公立大8名以上、難関大1名以上、合格している。 ○公務員試験の合格者が増加している。 ○就職率100%(県内7割以上)達成している。	○国公立大・難関大合格者数 H25…9名(島根大、熊本大、静岡大他) 名古屋大学 H26…7名(茨城大、鳥取大、島根大他) 筑波大学 H27…4名(鳥取大、島根大、都留文他) H28…3名(埼玉大、岡山大、高知大他) H29…4名(島根大、高知大他) H30…10名(防衛大、名古屋工大、鳥取大、島根大他) ○公務員合格 H27…3名(自衛隊) H28…3名(自衛隊) H29…3名(鳥取県警1人、自衛隊2名) H30…2名(鳥取県警1人、自衛隊1人) ○就職率100%(県内は6割)	○特進会議を定期的に開催し学力分析と対策を検討する。 ○個人カルテを作成し適切な進路指導を行う。 ○個人面談をとって進路目標を明確にする。 ○特別講座への参加を促し、公務員希望者を増やす。 ○県内外企業の就職先を開拓する。 ○ポートフォリオについての研修を実施し、総合的な学習での学びの蓄積を進路指導につなげる。	○国公立大学5名 (鳥取大学、鳥取環境大学、島根大学(2)、高知工科大学) ○アドバイザーとともに進路検討会を実施した。 ○個人面談を定期的に実施した。 ○定着指導を通し、県内外企業の就職先を開拓した。 ○ポートフォリオについての職員研修を行った。 ○進路ガイダンスを実施し、進路意識を高めた。 ○公務員(自衛隊)2名合格	C ○ガイダンスや講演会などを実施し、進路目標の実現に向け早めに準備をするよう促す。 ○個人面談をさらに細かく定期的に実施し、進路実現に向けて主体的に取り組むよう促す。 ○マトレをさらに有効に活用し、基礎学力の定着を図る。 ○高大接続による新しい取り組み(大学入試共通テスト、英語の民間試験の利用、学びの基礎診断、調査書・推薦書、ポートフォリオ、探求)について研修会を行う。
部活動の充実	○全国大会個人2名が入賞している。 ○県大会4チーム、個人15名が優勝している。 ○部活動をとって人間力が高まっている。	○全国大会入賞者数 ○県大会優勝チーム・個人 H24…1名 H24…3チーム・11名 H25…0名 H25…5チーム・11名 H26…1名 H26…7チーム・12名 H27…2名 H27…5チーム・13名 H28…1名 H28…2チーム・15名 H29…1名 H29…5チーム・13名	○外部指導者を委嘱し指導体制を強化する。 ○県内外の優秀な中学生を勧誘する。 ○寮生活を充実させ生徒の意欲を高める。 ○部活動加入率を上げて、より多くの部活動を活性化させる。 ○全校生徒で応援し盛り上げていく。 ○地域活動に積極的に参加する。	県大会優勝チーム:4団体 バスケットボール部(男女)柔道部(女)陸上部(男子フィールド) 個人: 14名 中国大会優勝:陸上部 谷尾 俊樹(やり投げ) 前田 直樹(棒高跳び)福山 愛羅(ハンマー投げ) 全国大会入賞者:谷尾 俊樹(高校総体6位 やり投げ) 以上の結果となり、おおむね達成と思われる。	A ○県大会、地方予選などでは成績が良いが、全国などの大きな大会では入賞が困難である。強豪校との練習試合を多く取り入れるなどレベルアップする必要がある。 ○生徒募集により力を入れ、有能な生徒を増やす。 ○各大会の情報全校生徒に公開し、積極的に応援に行くように促す。
授業の充実	○教職員の授業力が向上している。 ○生徒が授業に満足している。	○プロジェクト利用率が上がり、画像や映像を効率的に授業に利用している。 ○昨年度の公開授業実施率は80%であった。	○公開授業の期間を6月、10月に設定し、全教職員が実施する。 ○公開授業期間後に教科研究会を実施する。 ○生徒対象の授業アンケートを実施する。	○公開授業の実施率80% ○各教科科は必要に応じて実施ができた。 ○夏季休業前の授業アンケートで授業の振り返りをすることができた。 ○各教室に設置されたことでプロジェクトの利用率が上がり、授業へ取り入れる工夫がなされた。	B ○公開授業の実施計画をたて、実施の徹底を促す。 ○シラバスを早期に完成させる。 ○教科により外部講師の授業を計画的に取り入れ、専門性や学力の向上につとめる。 ○校外での授業や外部講師による授業について、教科での年計画をたてる。
健康教育の充実	○生徒が基本的な生活習慣を身につけ心身ともに健康な状態である。	○平成28年度以降、むし歯罹患率が45%である。治療率も25%と低い。 ○平成29年度保健室来室状況(内科)によると、頭痛・腹痛で来室する生徒が半数を占めており、その多くの原因が生活習慣の乱れによるものである。 ○専門の相談員を配置している。	○「歯と口の病気の予防」をほけんだよりや保健委員会活動をとって啓発していく。 ○「歯の治療の勧め」を懇談または学期毎に配布する。 ○生徒相談員については担任、学年団、相談員と連携し早期の解決を図る。 ○生活実態調査を年2回実施し、PTA会報誌に掲載する ○正しい生活習慣について、保健体育科・家庭科教員と連携し、授業をとって保健指導を実施する。 ○性についての学習を実施する。	○保健委員会の活動で「歯と口の病気の予防」をテーマにほけんだよりを作成した。特に長期休業前に歯科受診をしようと呼びかけた。また懇談時に受診のおすすめをしたことにより受診率32%と昨年より良い結果となった。 ○生徒相談は、職員連携を試みるも週1回の相談員が来校であるため早期解決とはならない事実もあった。 ○生活実態調査を7月、8月に実施しPTA会報誌に掲載した。保健室来室者も3学期になると減った。 ○性に関する授業を各学年に位置づけた。生徒のアンケートでは、「感染症について知ることができて良かった。知らないこともあった。」という感想が多くあった。	B ○う歯罹患率が減少、治療率をあげるため今後も生徒保健委員会の活動に取り上げていく。 ○生徒相談早期解決に向け職員連携をする。また、外部の機関と連携をする。 ○基本的な生活習慣を身につけられるよう今後も生徒自身が振り返り、改善ができるよう生活実態調査を実施し、指導していく。 ○性について講師と連携をとりながら、生徒自身が自分のこととしてとらえられるように授業の工夫をする。